

田辺湾周辺海域の腔腸動物 有櫛動物門

久保田 信

Faunal list of Coelenterata collected from Tanabe Bay and its vicinities.

Phylum Ctenophora

SHIN KUBOTA

日本産の有櫛動物門についての分類・系統学的研究は、主として、瀬戸臨海実験所にゆかりの深い諸先達が調査・研究を行ってきた(参考文献参照)。そのため、以下のリストに示されているように、田辺湾周辺海域から11属16種が記録されているが、これは日本で知られる大半の属・種の数に相当する。

有櫛動物は、一般にクシクラゲ類として知られており、概して終生プランクトンである。多くのものは楕円体あるいは兜形の体を縦走する8例の櫛板列をもち、体長数cmから20cmほどになる。帯形のクシクラゲでは、体長2mに達するものがある。このように大多数が肉眼で発見できる種であるのだが、体がきわめて脆弱なため、プランクトンネットによる採集では破損が激しい。そのため、当実験所周辺の海岸に漂泳してきた個体は注意深く採取され、即時の観察を経て記載・図示されたものが多い。そのような種類の中は、キヨヒメクラゲや *Bolinopsis rubripunctata* のように、原記載以降、記録が途絶えたものもみられる。

一方、転石の下面あるいはほかの無脊椎動

物の体上に座着し、扁形動物門に類似した体制をもつクシヒラムシ目もみられる。この目は、幼生の時には他の目と同様の体制を示し、プランクトン生活を送っている。しかし、成体になると有櫛動物門の一大特徴である櫛板を消失させてしまう種が多い。また、プランクトン性の種類が概して透明なのに対して、この目は美しい色彩を呈し不透明なものが多い。

下記のリストでは、種名だけにとどまらず、各種が所属する科、目、および綱の階級も示した。世界の有櫛動物門は、目下、2綱7目21科に分類されているが(Harbison & Madin, 1982などを参照)、田辺湾周辺ではそのうちの2綱5目10科が記録されており、この限られた海域にこれだけ多様な有櫛動物相が記録されている例はあまり知られていない。

前報(久保田, 1995)と同様に、種名のシノニムを[]中に示し、和名もあれば付した。また、*印をつけたキヨヒメクラゲとウニヤドリクラゲムシは、瀬戸(白浜)が模式産地になっていることを示している。

Phylum Ctenophora Eschscholtz, 1829 有櫛動物門

Class Atentaculata (=Nuda Chun, 1880) 無触手綱

Order Beroida Eschscholtz, 1829 ウリクラゲ目

Family Beroidae ウリクラゲ科

Beroe cucumis Fabricius, 1780 ウリクラゲ

Class Tentaculata Chun, 1880 有触手綱

Order Cestida Lesson, 1843 オビクラゲ目

Family Cestidae オビクラゲ科

Cestum amphitrites Mertens, 1833 オビクラゲ

Order Lobata L. Agassiz, 1860 カブトクラゲ目

Family Eurhamphaeidae アカダマクラゲ科

Eurhamphaea vexilligera Gegenbaur, 1856 アカダマクラゲ

Family Kiyohimeidae キヨヒメクラゲ科

**Kiyohimea aurita* Komai et Tokioka, 1940 キヨヒメクラゲ

Family Leucotheidae ツノクラゲ科

Leucothea japonica Komai, 1918 ツノクラゲ

Family Ocyropsidae チョウクラゲ科

Ocyropsis fusca (Rang, 1828) チョウクラゲ

Family Bolinopsidae カブトクラゲ科

Bolinopsis mikado (Moser, 1908) カブトクラゲ

Bolinopsis rubripunctata Tokioka, 1964

Order Cydippida Lesson, 1843 フウセンクラゲ目

Family Pleurobrachiidae テマリクラゲ科

Pleurobrachia rhodopis (Chun, 1880) テマリクラゲ [*P. pileus* Vanhöffen, 1895]

Hormiphora palmata Chun, 1889 フウセンクラゲ

Family Haeckeliidae フウセンクラゲモドキ科

Haeckelia rubra (Kölliker, 1853) [*Euchlora rubra* Chun, 1880] フウセ.ノクラゲモドキ

Order Platyctenida Bourne, 1900 クシヒラムシ目

Family Coeloplanidae クラゲムシ科

Coeloplana willeyi Abott, 1902 ベニクラゲムシ

Coeloplana mitsukurii Abott, 1902 ミツクリクラゲムシ

Coeloplana bocki Komai, 1920 クラゲムシ

**Coeloplana echinicola* Tanaka, 1931 ウニヤドリクラゲムシ

Coeloplana komaii Utinomi, 1963 コマイクラゲムシ

参 考 文 献

- Abott, J. F. 1902. Preliminary notes on *Coeloplana*. Annot. Zool. Japon., 4(4): 103-108.
- Harbison, G. R. & L. P. Madin. 1982. Ctenophora. In "Synopsis and Classification of Living Organisms. Vol. 1" (Paker, S. P., ed.), MacGraw-Hill, N. Y., pp. 707-715.

- Komai, T. 1918. On ctenophores of the neighbourhood of Misaki. Annot. Zool. Japon., 9: 451-474, pl. VII.
- . 1921. Notes on the two Japanese ctenophores, *Lampetia pancerina* Chun and *Beroe ramosa* n. sp. Annot. Zool. Japon., 10: 15-18.
- 駒井 卓. 1955. 日本近海の櫛水母類概説. 日本生物地理会報, vol. 16-19, pp. 13-14.

- Komai, T. & T. Tokioka. 1940. *Kiyohimea aurita*, n. gn., n. sp., type of a new family of lobate ctenophora. Annot. Zool. Japon., 19(1) : 43–46.
- & —— . 1942. Three remarkable ctenophores from the Japanese seas. Annot. Zool. Japon., 21(3) : 144–151.
- 久保田信. 1995. 田辺湾周辺海域の腔腸動物花水母目 (刺胞動物門, ヒドロ虫綱). 瀬戸臨海実験所年報, 第8巻, pp. 21–23.
- Moser, F. 1908. Japanische Ctenophoren. Abh. math.-phys. Kl. K. Bayer. Akad. Wiss. Suppl.-Bd. 1, Abh. 4. 77 pp.
- 西村三郎・野田泰一. 1992. 有櫛動物門 Ctenophora. 西村三郎(編), 原色検索日本海岸動物図鑑 I, 保育社. pp. 168–174, pl. 42.
- Tanaka, H. 1932. *Coeloplana echinicola* n. sp. Mem. Coll. Sci. Kyoto Imp. Univ., Ser. B, 7(5) : 247–250, pl. 19.
- Tokioka, T. 1964. *Bolinopsis rubripunctata* n. sp., a new lobatean ctenophore from Seto. Publ. Seto Mar. Biol. Lab., 12(1) : 93–99.
- 時岡 隆. 1961. 有櫛動物. 内田 亨(編), 動物系統分類学 2, 中山書店. pp. 205–233.
- Tokioka, T. 1969. A creeping ctenophore found on the sea cucumber, *Holothuria leucospilota* (Brandt). Publ. Seto Mar. Biol. Lab., 17(4) : 279–283.
- Utinomi, H. 1963. *Coeloplana komaii*, a new creeping ctenophore from Sagami Bay. Japn. J. Zool., 14(1) : 15–19.
- Yamazi, I. 1958. Preliminary check-list of plankton organisms found in Tanabe Bay and its environs. Publ. Seto Mar. Biol. Lab., 7 : 111–163.
- 山路 勇. 1966. 日本海洋プランクトン図鑑. 保育社. 369 頁.